

アンケート用紙

このアンケートの書き方

- あなたは、病院を平成 年 月 日に退院されています。平成12年9月1日現在のあなたの状況について、ご回答お願いします。
- アンケートは次のページから始まります。
 - 質問1から順番に、指示にしたがってご回答ください。
 - 質問項目の回答は、□に印を（例 ）つけてください。
 - 特に指示がないかぎり、一つだけに印をつけてください。
 - その他（ ）には、文字・数字でご回答ください。
- このアンケート用紙は、直接担当医にお渡しいただくか、郵送の場合は同封の封筒でご返送ください。
- ご不明の点がありましたら、お手数ですが担当医までお問い合わせください。

医師記入欄
施設名 :
担当医師 :
ID :
番号 :

質問 1. このアンケートの記入者をお教えください。

- 1) 本人 2) 配偶者 3) 子供 4) 子の配偶者 5) 両親
6) その他の親族 7) その他 ()

質問 2. 現在の生活状況をお教えください。

- 1) 全く障害なし
2) 症状はあるが特に問題となる障害はない。日常生活および活動は可能。
3) 軽度の障害（介助なしに自分のことができる）。
4) 中程度の障害（何らかの介助を要するが、歩行は介助なしにできる）。
5) 歩行や日常生活に介助が必要である。
6) ベッド上の生活で常に介助が必要である。
7) 退院後、死亡した。（→次の質問にお答えください）

・亡くなられた年月をお教えください。

平成____年____月

・亡くなられた原因は何ですか？

- 脳卒中 心臓病 肺炎 癌 その他の病気
 事故 その他 ()

・亡くなられた場所はどこですか？

- 自宅 病院 施設 その他 ()

平成12年8月31日までに亡くなられている場合は、以下の質問に対するご回答は不要です。

アンケートへのご協力大変ありがとうございました。

質問 3. 退院から平成12年9月1日現在までの状況についてお教えください。

- 1) 変わりない
2) 脳卒中を再発した（→質問3-1にお答えください）
3) 脳卒中以外の病気を患った（→質問3-2にお答えください）
4) 交通事故や転倒だけがをした

► 質問 3-1. その脳卒中の病型は？ 1) 脳梗塞 2) 脳出血 3) くも膜下出血
4) 一過性脳虚血発作 5) 不明 6) その他 ()

► 質問 3-2. その他の病気とは？ 1) 心臓病 2) 高血圧 3) 糖尿病
4) 癌 5) 肺炎 6) その他 ()

質問 4. 病院・診療所に通院されていますか？

- 1) 毎日通院している
2) 2~3日に一回程度通院している
3) 1週間に一回程度通院している
4) 2~3週間に一回程度通院している
5) 1ヶ月に一回程度通院している
6) 2~3ヶ月に一回程度通院している
7) していない
8) 現在入院中
9) その他 ()

質問 5. 日常生活において介護者が必要と思いますか？

- 1) いいえ 2) はい

質問 6. 日常生活において介護者がいますか（病院や施設に入院・入居されている方は、職員以外の介護者がいますか）？

- 1) いいえ

2) はい （はいと回答された方のみ質問6-1, 6-2にお答えください）

→ 質問 6-1 主な介護者を一人お教えください。

- 1) 配偶者 2) 子供 3) 子供の配偶者 4) 親 5) 親族
6) その他 ()

→ 質問 6-2 その方の年齢と性別をお教えください。

- 年齢 1) 39歳以下 2) 40～49歳 3) 50～59歳 4) 60～69歳
5) 70～79歳 6) 80歳以上

- 性別 1) 男 2) 女

質問 7. 介護保険の申請をしましたか？

- 1) していない (していないと回答した方のみ質問7-1にご回答ください)
2) した (したと回答した方のみ質問7-2, 7-3にお答えください)

→ 質問 7-1 介護保険の申請をしなかった理由は、なぜですか？

- 1) 介護を必要としないから
2) 39歳以下で資格がないから
3) 申請の仕方が分からぬから
4) その他 ()

→ 質問 7-2 介護保険のランクは以下のどれですか？

- 1) 自立 2) 要支援 3) 要介護度1 4) 要介護度2 5) 要介護度3
6) 要介護度4 7) 要介護度5 8) 不明 (申請中、その他)

→ 質問 7-3 介護保険による在宅サービスを受けてますか？

- 1) いない
2) いる (いると回答した方のみ次の質問にお答えください)

→ 受けられている在宅サービスをお教え下さい（複数回答も可）

- 1) 訪問介護（ホームヘルパーによるサービス）
2) 訪問入浴介護
3) 訪問看護（医師の指示により看護婦や保健婦が自宅を訪問）
4) 訪問リハビリテーション（医師の指示によりリハビリテーションを自宅で施行）
5) 在宅療養管理指導（医師、歯科医師、薬剤師、栄養管理士が自宅を訪問指導）
6) デイサービス（デイサービスセンターでのサービス）
7) デイケア（老人保健施設、病院、診療所でのサービス）
8) 短期入所生活介護（福祉施設のショートステイ）
9) 短期入所療養介護（医療施設のショートステイ）
10) その他 ()

質問 8. 平成12年9月1日現在のお住まいはどこですか？

- 1) 自宅 ----- 質問8-1にご回答ください
- 2) 子供の家 ----- 質問8-1にご回答ください
- 3) 両親の家 ----- 質問8-1にご回答ください
- 4) 親戚の家 ----- 質問8-1にご回答ください
- 5) 病院
- 6) 老人ホーム
- 7) 特別養護老人ホーム
- 8) 老人保健施設
- 9) その他 ()

► 質問 8-1. 同居されている家族の人数（本人を除く）は何人ですか？

- 1) 0人 2) 1~2人 3) 3~5人 4) 6~10人 5) 11人以上

質問 9 医療費（診療費・薬代）の実費負担（保険料を含まない）は一ヶ月にどのくらいですか？

- 1) 0円 2) 2,000円以下 3) 2,001~5,000円 4) 5,001~10,000円
- 5) 10,001~20,000円 6) 20,001~50,000円 7) 50,001円~100,000円
- 8) 100,001円以上

質問 10. 医療費を除く介護費（介護保険の自己負担金・介護に必要な交通費・おむつ代など）の実費負担は一ヶ月にどのくらいですか？

- 1) 0円 2) 2,000円以下 3) 2,001~5,000円 4) 5,001~10,000円
- 5) 10,001~20,000円 6) 20,001~50,000円 7) 50,001円~100,000円
- 8) 100,001円以上

質問 11. その他、ご意見などがございましたら、下の余白にご記入下さい。

質問 12 記入された日をお教えください。

平成 年 月 日

アンケートへのご協力大変ありがとうございました。

二次調査（追跡アンケート調査）の結果

一次調査参加患者	16,701人
うち、生存退院者	15,524人
回収調査表総数	11,266 (総回収率 : 11,266 / 15,524 = 72.6%)

156 施設中、12 施設 (423 症例分) が調査を辞退したため

二次調査対象患者	15,101人
----------	---------

二次調査表総回収数	11,266
うち、一次調査と照合不能	<u>- 370</u>
有効回収症例	10,896 (有効回収率 : 10,896 / 15,101 = 72.2%)

二次調査の有効回収症例 10,896 に対して集計を行った。その結果を事項から掲載する。

注意点

- ①アンケートの性格上、無記入や複数回答がある。
- ②各質問に対する回答を尊重したので、別の質問における同内容の問い合わせの症例数が異なる場合もある。
- ③質問 1 から 10 では、有効回収症例 10,896 に対する割合 (%) を求めた。
- ④下位質問に関しては、回答総数に対する割合 (%) を求めた。

表 51 質問 1. アンケートの記入者

	症例数	%
本人	5,431	49.8
配偶者	2,191	20.1
子供	2,071	19.0
子の配偶者	593	5.4
両親	23	0.2
その他の親族	195	1.8
その他	223	2.0

表 52 質問 2. 現在の生活状況（ハンディキャップ）

	症例数	%
全く障害なし	1,743	16.0
症状あるが、問題となる障害なし	3,325	30.5
軽度の障害（介助不要）	1,639	15.0
中等度の障害（何らかの介助要だが歩行可）	1,361	12.5
歩行や日常生活に介助要	1,414	13.0
ベッドの上の生活で常に介助要	1,187	10.9
退院後、死亡	547	5.0

表 53 質問 3. 退院後の疾病状況

	症例数	%
変わりない	7,492	68.8
脳卒中を再発	539	4.9
脳卒中以外の病気に罹患	1,241	11.4
交通事故や転倒をした	251	2.3

表 54 質問 4. 病院・診療所への通院

	症例数	%
毎日	172	1.6
2~3日に一回程度	454	4.2
1週間に一回程度	585	5.4
2~3週間に一回程度	2,450	22.5
1ヶ月に一回程度	3,890	35.7
2~3ヶ月に一回程度	407	3.7
していない	439	4.0
現在入院中	1,314	12.1
その他	498	4.6

表 55 質問 5. 日常生活で介護者が必要と思うか？

	症例数	%
思わない	6,228	57.2
思う	3,839	35.2

表 56 質問 6. 日常生活で実際に介護者がいるか？

	症例数	%
いない	4,996	45.9
いる	4,335	39.8

表 57 質問 6-1. (介護者がいる人のみ) 主な介護者は？

	症例数	%
配偶者	4,996	62.5
子供	1,001	21.1
子供の配偶者	485	10.2
親	47	1.0
親族	84	1.8
その他	160	3.4

表 58 質問 6-2-1. (介護者がいる人のみ) 主な介護者の年齢は？

	症例数	%
39歳以下	298	6.1
40~49歳	671	13.6
50~59歳	1,146	23.3
60~69歳	1,347	27.4
70~79歳	1,200	24.4
80歳以上	256	5.2

表 59 質問 6-2-2. (介護者がいる人のみ) 主な介護者の性別は？

	症例数	%
男	920	22.4
女	3,182	77.6

表 60 質問 7. 介護保険の申請をしたか？

	症例数	%
していない	6,300	57.9
した	3,343	30.7

表 61 質問 7-1. (介護保険申請をしなかった人のみ) その理由は？

	症例数	%
必要ない	5,186	85.5
39歳以下で資格がない	32	0.5
申請の仕方がわからない	393	6.5
その他	455	7.5

表 62 質問 7-2. (介護保険申請をした人のみ) ランクは？

	症例数	%
自立	494	13.3
要支援	228	6.2
要介護度 1	577	15.6
要介護度 2	577	15.6
要介護度 3	448	12.1
要介護度 4	560	15.1
要介護度 5	550	14.8
不明(申請中その他)	272	7.3

表 63 質問 7-3. (介護保険申請をした人のみ) 在宅サービスは受けているか？

	症例数	%
受けていない	3,990	75.2
受けている	1,319	24.8

表 64 質問 8. 現在(平成 12 年 9 月) の居住地

	症例数	%
自宅	7,952	73.0
子供の家	381	3.5
両親の家	36	0.3
親戚の家	16	0.1
病院	1,093	10.0
老人ホーム	38	0.3
特別養護老人ホーム	124	1.1
老人保健施設	329	3.0
その他	146	1.3

表 65 質問 9. 医療費の実費負担（月）

	症例数	%
0 円	1,016	9.3
2,000 円以下	2,625	24.1
2,001～5,000 円	2,439	22.4
5,001～10,000 円	1,524	14.0
10,001～20,000 円	726	6.7
20,001～50,000 円	474	4.4
50,001～100,000 円	671	6.2
100,001 円以上	235	2.2

表 66 質問 10. 医療費を除く介護費の実費負担（月）

	症例数	%
0 円	4,103	37.7
2,000 円以下	593	5.4
2,001～5,000 円	796	7.3
5,001～10,000 円	746	6.8
10,001～20,000 円	715	6.6
20,001～50,000 円	802	7.4
50,001～100,000 円	471	4.3
100,001 円以上	141	1.3

班会議での重要決定事項

平成 12 年度第 1 回班会議

日時：平成 12 年 6 月 16 日

場所：国立循環器病センター新館講堂

- 1) 二次調査（追跡調査アンケート調査）の用紙と送付する手紙の内容について
- 2) 二次調査（追跡調査アンケート調査）の開始と終了時期および提出期限について

平成 12 年度第 2 回班会議

日時：平成 13 年 2 月 9 日

場所：国立循環器病センター新館講堂

1) 基本方針

本研究で得られた知見は広く国内外に発表し、脳卒中医学ならびに医療の発展に貢献する必要がある。

2) 班としての報告や発表

厚生省へ報告し（平成 13 年 4 月）、早期に英文あるいは和文雑誌へ投稿する。

3) 本研究データを用いた発表に関する取り決め

班としての論文を作成後、研究参加施設から本研究データを用いた論文執筆あるいは学会発表の要望がある場合、解析データの一貫性をまもるために、企画時点で事務局に連絡し、班員ならびに協力者の同意を得ることが必要である。Authorship は事務局と相談する。また、発表に際して、下記研究グループ名を必ず明記する。

4) 研究グループ名

和文：脳梗塞急性期医療の実態に関する研究グループ

英文：Japan Multicenter Stroke Investigators' Collaboration: J-MUSIC

5) 各施設のデータをその施設の所属者が発表あるいは報告することに関しては、特に事務局に届ける必要はない。

6) 今後、追加解析のための調査を行う可能性がある。たとえば、登録症例を t-PA 認可のための historical control とする可能性があるので、そのときは各施設のご協力をお願いしたい。

7) 研究論文を数多く出したり、二次調査（アンケート調査）の解析を続けるために、新たな班会議などを立ち上げる必要がある。

8) NIHSS スコア 42 点などの高得点は原則としてありえないもので、少なくとも、深昏睡例や四肢麻痺例では失調の点を減じる処理をする。

協力施設名一覧 (平成 12 年 5 月現在)

敬称略

施設名	担当者	診療科
北海道地区	市立小樽第二病院	村井 宏 脳神経外科
	市立釧路総合病院	森本 繁文 脳神経外科
	市立札幌病院	野中 雅 脳神経外科
	市立函館病院	丹羽 潤 脳神経外科
	岩見沢市立総合病院	金子 貞男 脳神経外科
	王子総合病院	柏原 茂樹 脳神経外科
	大川原脳神経外科病院	井上 廉俊 脳神経外科
	大西病院	相澤 希 脳神経外科
	小樽脳神経外科病院	竹田 正之 脳神経外科
	釧路脳神経外科病院	斎藤 孝次 脳神経外科
	恵心会病院	徳田 穎久 脳神経外科
	札幌麻生脳神経外科病院	斎藤 久壽 脳神経外科
	新さっぽろ脳神経外科病院	中川 俊男 脳神経外科
	手稲渓仁会病院	布村 充 脳神経外科
	中垣脳神経外科病院	中垣 陽一 脳神経外科
	中村記念病院	中川原 讓二 脳神経外科
	函館脳神経外科病院	戸島 雅彦 脳神経外科
	北斗病院	井出 渉 脳神経外科
	星が浦病院	鈴木 進 脳神経外科
	留萌市立総合病院	川原 孝久 脳神経外科
東北地区	岩手医科大学医学部	小川 彰 脳神経外科
	石巻赤十字病院	北原 正和 脳神経外科
	岩手県立中央病院	関 博文 救命医療部(脳神経外科)
	公立氣仙沼総合病院	関 薫 脳神経外科
	財団法人大原総合病院附属大原医療センター	安孫子 尚 脳神経外科
	財団法人広南会広南病院	甲州 啓二 脳神経外科
	財団法人宮城厚生協会泉病院	今田 隆一 脳神経外科
	白河厚生総合病院	永山 徹 脳神経外科
	市立酒田病院	藤森 清 脳神経外科
	伸裕会渡辺病院	椎名 巍造 脳神経外科
	仙石病院	新妻 博 脳神経外科
	十和田市立中央病院	畠中 光昭 脳神経外科
	古川市立病院	大庭 正敏 救命救急センター(脳神経外科)
	山形市立病院済生館	佐藤 莊 脳神経外科
	岩手医科大学医学部	紺野 衆 神経内科
	岩手県立中央病院	田村 乾一 神経内科
	岩手県立宮古病院	高橋 弘明 神経内科
	北上済生会病院	渡辺 活見 神経内科
	八戸日赤病院	鈴木 一 神経内科
	盛岡日赤病院	石橋 靖宏 神経内科

	施設名	担当者	診療科
関東地区	川崎市立井田病院	早川 功	神経内科
	湘南鎌倉総合病院	川田 純也	神経内科
	医療法人社団仁愛会海老名総合病院附属東病院	滝沢 俊也	神経内科
	聖マリアンナ医科大学	高橋 洋一	神経内科
	東海大学	篠原 幸人	神経内科
	徳洲会芽ヶ崎徳洲会病院	亀井 徹正	神経内科
	日本医科大学	片山 泰朗	第二内科
	平塚市民病院	宮崎 宏道	脳神経センター
	松和会池上総合病院	佐藤 修	脳神経外科
	横浜南共済病院	桑名 信匡	脳神経外科
	県立足柄上病院	山下 俊紀	脳神経外科
	公立昭和病院	内湯 雅信	神経内科
	筑波記念病院	小林 栄喜	脳神経外科
	獨協医科大学	平田 幸一	神経内科
	都立神経病院	広木 昌彦	神経内科
	成田赤十字病院	加藤 誠	脳神経外科
	社会保険横浜中央病院	佐々木 淳	脳神経外科
	鉄蕉会龜田総合病院	西野 洋	神経内科
	東京女子医科大学脳神経センター	堀 智勝	脳神経外科
	船橋市立医療センター	唐澤 秀治	脳神経外科
	足利赤十字病院	奈良 昌治	神経内科
	大田原赤十字病院	白井 俊孝	神経内科
	慶應義塾大学病院	福内 靖男	神経内科
	国立病院東京医療センター	森田 陽子	神経内科
	埼玉医科大学	島津 邦男	神経内科
	東京女子医科大学	内山 真一郎	神経内科
	東京都済生会中央病院	高木 誠	神経内科
	東京都多摩老人医療センター	濱本 真	神経内科
	日本鋼管病院	村松 和浩	神経内科
	水戸赤十字病院	小原 克之	神経内科（第1内科）
	杏林大学	小池 秀海	第一内科
	国立病院東京災害医療センター	高里 良男	脳神経外科
	佐々総合病院	平塚 秀雄	脳神経外科
	聖麗会聖麗メモリアル病院	河野 拓司	脳神経外科
	東京都保険医療公社南部地域病院	小池 順平	脳神経外科
	都立荏原病院	横地 正之	神経内科
	都立府中病院	三木 啓全	脳神経外科
	日本医科大学多摩永山病院	志村 俊郎	脳神経外科
	武藏野赤十字病院	綿引 定清	神経内科
	公立阿伎留病院	前村 栄治	脳神経外科
	北里大学医学部	北原 孝雄	救命救急医学
	徳寿会相模原中央病院	山下 畏平	脳神経外科

	施設名	担当者	診療科
中部地区	清水市立病院	尾内 一如	脳神経外科
	市立半田病院	中根 藤七	脳神経外科
	親和会八千代病院	井上 孝司	脳神経外科
	聖隸三方原病院	宮本 恒彦	脳神経外科
	総合大雄会病院	船越 孝	脳神経外科
	町立浜岡総合病院	永田 淳二	脳神経外科
	トヨタ記念病院	中村 太郎	脳神経外科
	長野赤十字病院	斎藤 隆史	脳神経外科
	浜松労災病院	三宅 英則	脳神経外科
	福井赤十字病院	徳力 康彦	脳神経外科
	稻沢市民病院	五島 一征	内科
	大垣市民病院	渡辺 幸夫	内科
	岐阜県立多治見病院	龜山 隆	神経内科
	国立名古屋病院	奥田 聰	第二神経内科
	総合病院静岡赤十字病院	岡部 多加志	神経内科
	中部労災病院	榎原 敏正	神経内科
	名古屋掖済会病院	馬渕 千之	神経内科
	焼津市立総合病院	酒井 直樹	神経内科
	三之町病院	斎藤 豊	神経内科
近畿地区	関西労災病院	梶山 幸司	神経内科
	京都第二赤十字病院	山本 康正	神経内科
	国立循環器病センター	峰松 一夫	内科脳血管部門
	国立循環器病センター	成富 博章	内科脳血管部門
	在日本南アレスビ・リアン・ミッション淀川キリスト教病院	宮下 孟士	脳血管内科
	市立泉佐野病院	小川 真	神経内科
	天理よろづ相談所病院	橋本 修治	神経内科
	錦秀会阪和記念病院	奥 恵一	内科
	彦根市立病院	種田 二郎	神経内科
	兵庫県立姫路循環器病センター	田渕 正康	神経内科
	星ヶ丘厚生年金病院	半田 伸夫	内科
	医療法人栄昌会吉田病院	吉田 耕造	脳神経外科
	啓信会京都きづ川病院	山上 達人	脳神経外科
	国保橋本市民病院	西口 孝	脳神経外科
	国立京都病院	塙原 徹也	脳神経外科
	たちばな会西岡病院	西岡 平	整形外科
	西宮協立脳神経外科病院	大村 武久	脳神経外科
	日本橋病院	米田 俊一	脳神経外科

	施設名	担当者	診療科
中・四国 地区	宇部興産中央病院	福迫 俊弘	神経内科
	川崎医科大学	藤井 千穂	救急医学
	吳共済病院	金久 稔秀	内科
	国立吳病院	山田 淳夫	神経内科
	国立浜田病院	佐々木 清博	内科
	済生会境港総合病院	粟木 悅子	神経内科
	財団法人倉敷中央病院	山尾 哲	神経内科
	社会保険下関厚生病院	由村 健夫	脳神経内科
	近森会近森病院	山崎 正博	内科
	山口県立中央病院	平田 郁雄	内科
	おさか脳神経外科病院	芋坂 邦彦	脳神経外科
	香川労災病院	藤本 俊一郎	脳神経外科
	幡多けんみん病院	森本 雅徳	脳神経外科
	国立下関病院	今村 純一	脳神経外科
	財団法人操風会岡山旭東病院	吉岡 純二	脳神経外科
	総合病院松山市民病院	角南 典生	脳神経外科
	徳島県立中央病院	本藤 秀樹	脳神経外科
	麻植協同病院	浅野 登	脳神経外科
九州地区	荒尾市民病院	山口 安広	神経内科
	飯塚病院	藤井 直樹	神経内科
	永富脳神経外科病院	森 美由紀	神経内科
	大牟田市立総合病院	中山 顯児	脳神経外科
	北九州市立八幡病院	辻村 雅樹	脳神経外科
	球磨郡公立多良木病院	益満 務	脳神経外科
	熊本市民病院	橋本 洋一郎	神経内科
	熊本労災病院	和田 邦泰	神経内科
	熊本脳神経外科病院	池田 順一	神経外科
	高邦会高木病院	弓削 龍雄	脳神経外科
	小倉記念病院(社会保険)	西川 方夫	脳神経外科
	国立病院九州医療センター	鴨打 正浩	脳血管内科
	済生会熊本病院	米原 敏郎	神経内科
	新別府病院	今居 裕淑	神経内科
	聖マリア病院(雪ノ聖母会総合病院)	竹迫 仁則	脳血管内科
	垂水中央病院	上村 光平	神経内科
	西有田共立病院	石井 善智	内科
	厚地脳神経外科病院	厚地 政幸	脳血管内科/外科
	同仁会牧角記念病院	牧角 泰治	内科/外科